

# 令和6年度 学校評価集計分析結果

## 1 実施時期 令和6年12月上旬～中旬

Classi及びFormsによるアンケート

## 2 対象及び回答状況

生徒 381名回答/384名 回答率99.2%

保護者 358名回答/384名 回答率93.2%

教職員 34名回答/34名 回答率100%

## 3 分析内容

### (1) 分析表の表示について

ア 学校評価近似項目を抜粋し昨年度のポイントと比較。

イ 数値は「その通り(10点)」「概ねその通り(7点)」「やや違う(3点)」「全く違う(0点)」とし、平均値をとったもの。

### (2) 学校生活全般

学校生活全般		生徒	保護者	教職員
生き生きとした安心・安全な学校生活を送っている	R 6	8.4	7.7	8.3
	R 5	8.3	7.7	8.1
話しやすく相談しやすく意思疎通ができています	R 6	7.5	7.4	7.9
	R 5	8.4	7.8	9.1

「生き生きとした安心・安全な学校生活を送っている」と回答した生徒が増え、教室や各教育活動場所での教育内容の充実が図られていると伺える。一方で、「話しやすく意思疎通ができています」について教職員と生徒で大きく昨年度を下回り、学校生活全般の満足度を上げる鍵となるのではないだろうか。

### (3) 生徒指導

生徒指導		生徒	保護者	教職員
生活指導、服装指導等に一貫性があり適切に行っている	R 6	7.8	7.4	7.2
	R 5	8.2	7.8	8.4
教職員は、適切な部活動指導を行っている	R 6	7.7	7.3	7.9
	R 5	8.1	7.4	7.3
アンケート等でいじめの未然防止や早期発見、速やかな対応に努めている	R 6	8.2	7.5	8.7
	R 5	8.0	7.6	8.2

整容指導について三者とも昨年度を下回る結果となった。生徒と教職員、保護者が参加し行われた校則検討委員会で夏季軽装期間の校則が少しずつ変わっており、教員としては「適切な指導」が難しい時期があった。部活動においては、昨年度まで「熱心な指導」となっていたものを「適切な」と改めた。それぞれの部で実態に応じた「適切」を探していきたい。いじめの未然防止について、三者とも値が昨年度より高く、生徒独自質問の「私はいじめ防止に自ら努めている」の項目

においても高い値となっており、学校にいじめを許さないという環境は整ってきているものと考えられる。

### (4) 学習・進路指導

学習・進路指導		生徒	保護者	教職員
適切な教科指導(授業改善)を行っている	R 6	8.1	7.5	7.4
	R 5	8.3	8.0	8.3
進路希望の実現を目指せるように指導している	R 6	8.3	7.6	8.1
	R 5	8.2	8.0	9.1
校内外のさまざまな人と関わり、自分の進路や将来について明確な目標ができた	R 6	7.3	6.8	8.4
	R 5	8.1	7.1	7.8

学習・進路ともに昨年度より保護者の評価は項目すべて0.3ポイント以上上げており、家庭での印象は昨年よりよくない状況である。また教員も授業改善や生徒の多様な進路への対応が影響してか数値が下降している。生徒については、学習で微減、進路については増加に転じており、教員は現在の授業改善や進路指導で生徒が肯定的に捉えていると考えてよいのではないだろうか。ただ、生徒の「校外の方との関わりから明確な目標」といったところでは昨年より0.8ポイント下がっており、実感を持たせる工夫が必要である。

### (5) 強化を図りたいもの

強化を図ってほしい(図りたい)もの		
生徒	保護者	教職員
進路 166 学習 162 部活・生き方 62	進路 240 学習 191 生き方 99	学習 24 生活 17 進路 9

昨年度は保護者にのみ取っていたものを今年度は生徒・教職員にも実施。保護者のものは昨年度と大きな変化が見られず、時代や生徒・保護者のニーズを把握するために活用していきたい。

## 4 まとめ

保護者については昨年度と比較できる項目14項目中8項目で0.3ポイント以上の下降となっている。中でも学習・進路に関わる期待の高い項目で0.4~0.5ポイントの下降となっている。生徒は8項目で下降となり、中でも3-(2)で上げた意思の疎通等に課題を残した。一方、5項目で上昇しており、「生き生きとした学校生活」「いじめの防止」「家庭学習」「進路指導」「情報の提供(ICT化)」に生徒の肯定的な印象が集まった。この数値化で7.3を超えていると「概ねその通り」までの肯定的な回答が約8割を超える事になる。ほぼすべての質問でこの割合となり、各項目の関係分掌学年でこの状況を保持増進させていきたい。